

法人名:財団法人 青森県建設技術センター

法人の概要

平成15年6月1日 現在

| | | | | | | |
|-------|------------------|-------------------|-----------------------------------|-----------|-------|------------|
| 法人の名称 | 財団法人 青森県建設技術センター | | 代表者職氏名 | 理事長 林 泰 義 | 所 管 課 | 県土整備部整備企画課 |
| 設立年月日 | 昭和51年 4月 1日 | 事務所の所在地 (電話番号) | 青森市中央三丁目21番9号 017 - 777 - 6545 | | | |

組織構成

| | | | | | |
|---------|---------|------------|-----------|----------|---------|
| 理事・役員数 | 常勤 2 名 | (県派遣) 名 | (県OB) 1 名 | 非常勤 13 名 | 合計 15 名 |
| 監事・監査役数 | 常勤 名 | (県派遣) 名 | (県OB) 名 | 非常勤 2 名 | 合計 2 名 |
| 職 員 数 | 常勤 60 名 | (県派遣) 14 名 | (県OB) 1 名 | 非常勤 22 名 | 合計 82 名 |

臨時職員は非常勤に含む。

基本財産・資本金等

| | | うち県の出資等額 | 県の出資等比率 |
|----------|-----------|----------|---------|
| 基本財産・資本金 | 3,000 千円 | 3,000 千円 | 100.0 % |
| 基 金 | 0 千円 | 0 千円 | % |
| 合 計 | 3,000 千円 | 3,000 千円 | 100.0 % |
| そ の 他 | 20,620 千円 | 千円 | % |

その他20,620千円は、(財)青森県下水道公社の解散に伴い、寄附されたものである。

主な出資者等の構成(出資等比率順位順)

| 氏名・名称 | 金額(千円) | 出資等比率(%) |
|-------|--------|----------|
| 1 青森県 | 3,000 | 100.0 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 氏名・名称 | 金額(千円) | 出資等比率(%) |
|-------|--------|----------|
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |

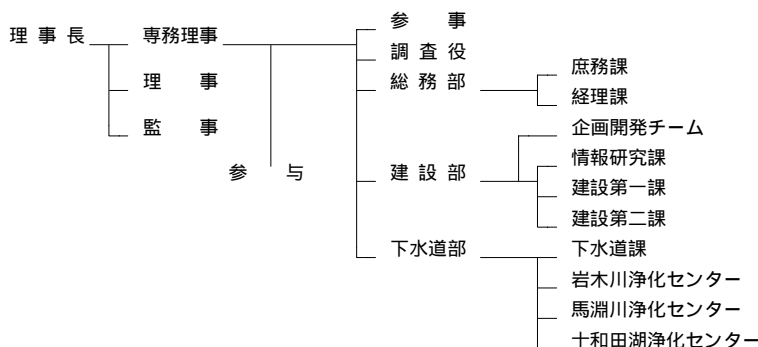
会 員 数(社団法人対象)

| 区 分 | 正会員 | 賛助会員 | その他の会員 | 合計 |
|-----|-----|------|--------|----|
| 法 人 | | | | 0 |
| 個 人 | | | | 0 |

寄付金に関する減免措置

| | | |
|-----------|------------------|---|
| 特定公益法人の有無 | 有 (年 月 月より) | ⊖ |
| 指定寄付金の有無 | 有 (年 月 日~年 月 日) | ⊖ |

組 織 図 (簡略に記入するか別紙で添付してください。)



設立目的

センターは、建設事業に関する調査、研究及び技術的支援並びに公共施設の維持管理業務等を行い、もって、青森県内における建設事業の振興発展に寄与することを目的とする。

設立の背景

1. 弘前市を中心とした昭和50年大災害の復旧工事の早期対応が必要となり、また、本県における良質な社会資本の整備に対する要望が年々増大しており、県及び市町村の土木技術職員の業務量は増加の傾向にあったが、公共工事の積算については、歩掛、単価等の関係があって、業界には委託できない事情がある。
2. 本県独自の土木技術に係る公的調査、試験研究機関の設置の必要性が増大しており、また業界も含めて、県内土木技術者の資質の向上を図るため、土木技術に関する研究事業を実施する公的機関の必要性が増大している。
3. 以上のことから、県・市町村の公的事業に係る工事の設計、積算及び管理を行い、県・市町村の公的事業の円滑な執行を補完することにより、土木技術職員の業務量の緩和を図り、県及び市町村の土木技術職員並びに建設業界関係技術職員の技術向上を図るため、県が全額出捐して、昭和51年4月に財団を設立した。

(旧(財)青森県下水道公社分)

1. 岩木川流域下水道は昭和62年4月より一部供用を開始し、馬淵川流域下水道及び十和田湖特定環境保全公共下水道は平成3年4月の共用開始に向けて事業を進めており、県及び関係市町村が一体となって下水道の整備促進に取り組んでいるところであった。

下水道の機能を十分に発揮させるためには、その整備とともに、適切な維持管理を行うことが必要である。

2. 下水道の維持管理については、水質監視の徹底、下水汚泥の円滑な処理処分、それらのための各種専門技術者の確保等多くの課題に直面しており、これらの課題に対応し、さらに流域下水道の適正かつ効率的な維持管理を行うためには、県と流域関連市町村等との密接な連携による協力体制を確保することが必要であるため設立したものである。

事業内容

当センターは、建設工事の設計、積算及び施工管理を行い、県及び市町村等の建設工事執行の補完的役割を果たす。

また、建設に関する技術の研修、調査及び研究並びに公共施設の下水道維持管理等を行い、本県における建設事業の振興発展に寄与する。

マネジメント

1 経営理念、中長期経営計画

(1)経営者の経営理念・基本目標等

建設技術の改善向上と顧客の信頼を高め、高品質な社会資本整備に協力することにより、地域振興発展に貢献する。そのため、顧客満足 継続的改善 目標管理 を徹底し、業務を推進していく。

また、組織の活性化を図り、経営の健全化のため、より一層適正な事業運営に努めながら、次のことがらを当面の重点的な経営目標とする。

1. 入札契約適正化法施行に伴い、発注者である県及び市町村に対して適正な事業執行が義務付けられ、発注者としての責任ある体制の確保が求められていることから、積算業務と併せて工事現場の施工管理業務の受託を促進するとともに、特に市町村の技術者不足を補うため、設計、積算、施工管理の受託を促進し、建設行政の補完・支援を強化する。
2. 流域下水道の適正でより効率的な維持管理を推進するとともに、市町村の下水道事業への支援を強化する。
3. 徹底した品質管理を目指すとともに、全職員の意識改革と責任の所在の明確化を図るため、ISO9001(品質マネジメントシステム)の認証を取得し、システムに沿った管理経営を継続する。

(2)平成14年度における経営者の経営目標の達成度の自己評価

平成14年4月に理事長ほか部長以上の幹部役職員による経営幹部会議を設置(毎週1回開催)しており、さらに毎月、課長以上の役職員による課長会議を開催している。

同会議において、経営目標の達成度の自己評価・分析を検討した結果、目標は概ね達成されているとの評価であった。

(3)平成15年度における経営者の経営目標

1. 徹底した品質管理を目指すとともに、全職員の意識改革と責任の所在の明確化を図るため、ISO9001(品質マネジメントシステム)の認証を取得し、システムに沿った管理経営を継続する。
2. 県及び市町村職員並びに技術者集団としての当センター職員の技術力の向上を積極的に推進するとともにプロパー管理職の資質向上のため、センター独自に年間を通じた基礎研修(管理職研修)を実施する。
3. 公共工事入札契約適正化法の施行に伴う発注者への補完・支援を推進するとともに積算業務と併せて工事現場の施工管理業務の受託を促進する。
4. 適正な予算の執行を図りながら経費の節減に努め、公益法人として適正な利益を確保する。
5. 下水道部門について、維持管理業務のより一層適正かつ効率的な運営に努め、環境に配慮した循環型社会への対応として、下水処理により生ずる廃棄物等の利活用の調査研究を進める。
6. 年度当初に経営目標に基づく今年度の検討項目を各部に指示し、それに基づく業務計画を立て、毎月開催する課長会議において定期的に進捗状況を報告させ、達成度を明確にする。

(4)中長期経営計画の状況

| | | |
|---------|-----------------|-------------|
| 計画の策定状況 | (14年度 ~ 20年度) | ○ 昨年度までに策定済 |
| | | 今年度策定 |

2 事業内容等

(1)平成15年度予定している主な事業

| 事業名 | 事業区分 | 公益・収益区分 | 直営・委託区分 | 金額(千円) | 全体事業費に占める割合(%) | 事業内容 |
|--------------|--------------|---------|---------|-----------|----------------|---|
| 調査研究事業 | 受託事業 | 公益事業 | 直営 | 13,500 | 0.6% | 道路災害防除防災点検データ更新 建設発生土対策 ホタテ貝殻有効利用 |
| 道路等台帳整備事業 | 受託事業 | 収益事業 | 直営 | 5,000 | 0.2% | 道路台帳 |
| 監理技術事業 | 受託事業 | 収益事業 | 直営 | 10,500 | 0.5% | 建設工事管理システム登録技術者に係る データ管理 |
| 建設材料試験 | 受託事業 | 収益事業 | 直営 | 90,000 | 4.3% | 土木材料(コンクリート、アスファルト、土、石) に関する試験の受託 |
| 研修事業 | 自主事業 | 公益事業 | 直営 | 4,000 | 0.2% | 土木材料研修、初任者研修、土木技術研修、 現場技術研修、災害復旧実務者研修等、土木 技術・知識の修得を進めるための研修開催 |
| 土木工事積算事業 | 受託事業 | 収益事業 | 直営 | 334,000 | 16.0% | 県・市町村土木工事における工事費の算定業 務 |
| 土木工事施工管理事業 | 受託事業 | 収益事業 | 直営 | 106,000 | 5.1% | 県・市町村工事における施工管理業務 |
| 県下水処理場維持管理事業 | 受託事業 | 収益事業 | 一部委託 | 1,527,806 | 73.1% | 岩木川流域下水道、馬淵川流域下水道及び 十和田湖特定環境保全公共下水道の維持管 理業務 |
| | | | 直営 | 602,806 | | |
| | | | 委託 | 925,000 | | |
| 公益事業支出 | 17,500 千円 | | | 直営事業支出 | | 1,165,806 千円 |
| 収益事業支出 | 2,073,306 千円 | | | 委託事業支出 | | 925,000 千円 |
| 当期支出(+) | 2,090,806 千円 | | | 当期支出(+) | | 2,090,806 千円 |
| / | 0.8 % | | | / | | 55.8 % |

(2)平成15年度予定している主な事業に係る目標(指標)内容

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|----------|----------|----------|--------------------------|
| 調査研究事業 | | | | 13,500千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 27,433千円 | 13,230千円 | 31,909千円 | 循環型社会形成の一環としての調査研究をすすめる。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|-----------|----------|----------|-----------------|
| 道路等台帳整備事業 | | | | 5,000千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 109,398千円 | 90,059千円 | 10,108千円 | 調書作成等直営業務に限定する。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|----------|----------|----------|-----------|
| 監理技術業務 | | | | 10,500千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 11,025千円 | 11,025千円 | 10,552千円 | 例年どおりとする。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|-----------|----------|----------|--|
| 建設材料試験事業 | | | | 試験手数料90,000千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 100,009千円 | 97,370千円 | 92,600千円 | 建設材料の試験は公共事業の施行に伴ない必要となるものであることから、公共事業費を勘案し試験手数料を設定している。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|--------|--------|--------|------------------------------|
| 研修事業 | | | | 研修開催回数13回 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 9回 | 11回 | 12回 | 研修事業は階層別研修、専門研修、特別研修を実施している。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 土木工事設計積算事業 | | | | 334,000千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 416,356千円 | 421,426千円 | 381,163千円 | 公共工事の動向を勘案する。 |

| 事業名 | | | | 目標値 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 土木工事施工管理事業 | | | | 106,000千円 |
| 過去の実績 (単位) | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 |
| | 137,369千円 | 129,324千円 | 121,199千円 | |

| 事業名 | | | | 目標値 | | | |
|----------------------------|-----------|--------|--------|--------------|---|----------------|------------|
| 県下水処理場維持管理業務(岩木川、馬淵川、十和田湖) | | | | 水質 | | 下水道法(基準値)管理目標値 | |
| | | | | PH | | 5.8 PH 8.6 | 5.8 PH 8.6 |
| | | | | BOD(mg/L) | | 20 | 16 |
| | | | | SS(mg/L) | | 70 | 56 |
| | | | | 大腸菌群数(個/cm3) | | 3,000 | 2,400 |
| 過去の実績 (単位) | 水質 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成14年度 | 設定理由等 | | |
| | PH | 岩木 7.0 | 岩木 7.5 | 岩木 7.5 | 放流水質基準は下水道法で決まっているが、標記3項目について基準値の8割を目標値として、公共用水域の水質保全に寄与する。 | | |
| | | 馬淵 7.0 | 馬淵 6.9 | 馬淵 6.8 | | | |
| | | 十和 6.9 | 十和 6.9 | 十和 6.8 | | | |
| | BOD(mg/L) | 岩木 5.3 | 岩木 6.7 | 岩木 7.5 | | | |
| | | 馬淵 1.8 | 馬淵 2.5 | 馬淵 3.0 | | | |
| | | 十和 2.0 | 十和 1.9 | 十和 4.7 | | | |
| | SS(mg/L) | 岩木 7 | 岩木 4 | 岩木 5 | | | |
| | | 馬淵 2 | 馬淵 3 | 馬淵 3 | | | |
| | | 十和 2 | 十和 3 | 十和 5 | | | |
| 大腸菌群数 (個/cm3) | 岩木 0 | 岩木 0 | 岩木 0 | | | | |
| | 馬淵 0 | 馬淵 1 | 馬淵 1 | | | | |
| | 十和 22 | 十和 0 | 十和 68 | | | | |

(3)主な受託事業の再委託状況

(単位:千円)

| 受託事業名 (再委託先) | 再委託の内容・理由 | 13年度再委託金額 | | 14年度再委託金額 | |
|-------------------------------|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 13年度受託事業費 | 14年度受託事業費 | 13年度再委託金額 | 14年度再委託金額 |
| 道路等台帳整備事業 (測量業者) | 道路等台帳整備事業のうち、測量業務を再委託した。 | 73,521 | / | 4,994 | / |
| | | 90,059 | 81.6% | 10,108 | 49.4% |
| 土木工事設計積算施工管理事業 (民間コンサルタント) | 図面の修正を再委託した。 | 6,091 | | 2,699 | |
| | | 550,750 | 1.1% | 502,363 | 0.5% |
| 県下水処理場維持管理事業 (豊産管理(株)外) | 運転管理業務及び設備機器等の点検業務を民間業者に再委託した。 | 892,834 | | 965,381 | |
| | | 1,419,372 | 62.9% | 1,418,984 | 68.0% |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合 計 | | 972,446 | | 973,074 | |
| | | 2,060,181 | 47.2% | 1,931,455 | 50.4% |

(4)直営事業の比率

(単位:千円)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 直営事業支出額 | 1,221,526 | 1,205,144 | 1,037,700 |
| 委託事業支出額 | 967,270 | 972,446 | 973,074 |
| 当期支出額(+) | 2,188,796 | 2,177,590 | 2,010,774 |
| / | 55.8% | 55.3% | 51.6% |

直営事業とは、公社等が自ら実施している事業です。

(5)公益事業と収益事業の比率

(単位:千円)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 公益事業支出額 | 1,378,423 | 1,427,378 | 8,623 |
| 収益事業支出額 | 810,373 | 750,212 | 2,002,151 |
| 当期支出額(+) | 2,188,796 | 2,177,590 | 2,010,774 |
| / | 63.0% | 65.5% | 0.4% |

(6)実施事業の広報活動等

| 広報した事業等 | 実施時期 | 実施媒体 | 広報内容(概要) |
|-----------------------------------|-------------|--|--|
| 業務案内作成・配布 | 平成15年8月 | (財)青森県建設技術センター | 技術力向上、技術提供、情報発信、下水道維持管理についての業務案内を、全国建設技術センター、県及び市町村等関係機関へ配布 |
| 「入札・契約の適正化法」の周知活動及び発注者支援業務資料配布・説明 | 5月22日～6月20日 | (財)青森県建設技術センター | 県内66市町村をまわり、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」の説明、発注者支援制度に関するパンフレットの配布・説明を実施 |
| 下水道維持管理年報及びリーフレット作成 | 平成15年8月 | (財)青森県建設技術センター | 年報:年度の流入水量、水質管理報告等維持管理状況のとりまとめ リーフレット:3浄化センターの概要説明で見学者等への配布 全国下水道公社、県及び市町村等関係機関へ配布 |
| 第一回下水道水質研修会 | 平成15年7月31日 | (財)青森県建設技術センター、 青森県整備企画課、 青森県都市計画課 | 下北、県南地域の市町村職員を対象に、処理場の水質管理について(試験方法や試験結果の取扱い方法等、水質実習を含む)の研修会を馬淵川浄化センターで実施 |

| | | | |
|------------------|---------------|--|---|
| 第二回下水道水質研修会 | 平成15年10月2日 | (財)青森県建設技術センター、青森県整備企画課、青森県都市計画課 | 津軽地域の市町村職員を対象に、処理場の水質管理について(試験方法や試験結果の取扱い方法等、水質実習を含む)の研修会を岩木川浄化センターで実施する。 |
| 下水道デー(弘前会場2ヶ所) | 平成15年9月 | 青森県都市計画課、弘前市他10流域関連市町村、(財)青森県建設技術センター、日本下水道事業団 | (さくら野会場)(9/6,7)パネル展示:下水道事業実施市町村図、下水道普及率等 汚泥の再資源化製品展示(歩道パネル)、減容化観察(溶融スラグ)、 パンフレット配布、アンケート実施、記念品配布等 (浄化センター)(9/6~10)処理場施設見学、しくみの説明、ビデオによる放映、等 |
| 下水道デー(八戸会場2ヶ所) | 平成15年9、10月 | 青森県都市計画課、八戸市他4流域関連市町村、(財)青森県建設技術センター、日本下水道事業団 | (市庁舎前広場)(10/26,27)パネル展示:下水道事業実施市町村図、下水道普及率等 汚泥の再資源化製品展示(歩道パネル)、減容化観察(溶融スラグ)、 パンフレット配布、アンケート実施、記念品配布等 (浄化センター)(9/6~10)処理場施設見学、しくみの説明、ビデオによる放映、等 |
| 下水道デー(十和田湖会場1ヶ所) | 平成15年9月8日~12日 | 青森県都市計画課、十和田湖町、(財)青森県建設技術センター、日本下水道事業団 | (浄化センター)パネル展示、処理場施設見学案内、しくみの説明、ビデオによる放映、パンフレット・記念品配布等 |
| 処理場見学会 | 年間を通じて随時 | (財)青森県建設技術センター | 処理場施設見学会、下水道のしくみの説明(見学者は、3処理場で年間1700人主に小学4年生) |
| 青森県下水道研修会 | 4回/年予定 | 青森県都市計画課、(財)青森県建設技術センター、日本下水道事業団、岩木川流域下水道事業連絡協議会、馬淵川流域下水道事業連絡協議会、陸奥湾水域下水道事業連絡協議会、全国町村下水道推進協議会青森県支部 | 下水道処理の原理及び処理場運転管理等の専門講習を実施する。 第一回は、7月23日~25日の3日日間、消費税研修を市町村担当職員を対象に実施した。 |
| 下水道技術発表会 | 平成15年12月予定 | (財)青森県建設技術センター | プロパー職員個々の業務成果を事例発表し、自己研鑽を行う。 |
| 青森県下水道事業連絡会議 | 平成15年10月22日 | 青森県都市計画課、(財)青森県建設技術センター、日本下水道事業団 | 下水道事業の事例発表等 |

(7)類似事業を行う業種又は事業者名

| 業種又は事業者名 | 類似している事業内容 |
|----------|------------|
| | |
| | |
| | |
| | |

その事業者が、県が出資等を行っている法人であるか否かに関わらず、記入してください。

3 組織体制等

(1) 役職員数(15.6.1現在)

(単位:人)

| 項目 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | |
|--------|---------|------|------|----|
| 常勤役員 | 県派遣職員 | 1 | | |
| | 県職員OB | 1 | 1 | 1 |
| | 民間からの役員 | | 1 | 1 |
| | プロパ-職員 | | | |
| | 小計 | 2 | 2 | 2 |
| 常勤職員 | 県派遣職員 | 11 | 16 | 14 |
| | 県職員OB | 1 | 1 | 1 |
| | プロパ-職員 | 31 | 46 | 45 |
| | 小計 | 43 | 63 | 60 |
| 非常勤役員 | 県・市町村関係 | 9 | 8 | 8 |
| | 民間からの役員 | 7 | 7 | 7 |
| | 小計 | 16 | 15 | 15 |
| 非常勤職員 | 県職員OB | | | |
| | その他の職員 | | | |
| | 小計 | 0 | 0 | 0 |
| 臨時職員 | 21 | 21 | 22 | |
| 計(~) | 82 | 101 | 99 | |

(2) 職員の年代別構成(15.6.1現在)

(単位:人)

| | 50代以上 | 40代 | 30代 | 20代 | 10代 | 合計 |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|----|
| プロパ-職員 | 4 | 14 | 18 | 9 | | 45 |
| 県派遣職員 | 9 | 5 | | | | 14 |
| 県職員OB | 1 | | | | | 1 |
| 非常勤職員 | | | | | | 0 |
| 臨時職員 | 9 | 4 | 2 | 7 | | 22 |
| 計 | 23 | 23 | 20 | 16 | 0 | 82 |

(3) 職員の勤続年数別構成(15.6.1現在)

(単位:人)

| | 30年以上 | 20年以上 | 10年以上 | 5年以上 | 5年未満 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|------|------|----|
| プロパ-職員 | | 15 | 17 | 8 | 5 | 45 |
| 県派遣職員 | | | | | 14 | 14 |
| 県職員OB | | | | | 1 | 1 |
| 非常勤職員 | | | | | | 0 |
| 臨時職員 | | | | 6 | 16 | 22 |
| 計 | 0 | 15 | 17 | 14 | 36 | 82 |

(4) 役職員の見直し内容

| 13年度 | 14年度 | 15年度 |
|-----------------------------|---|--------------|
| 前年度(12年度)より常勤役員1名を減じ、2名とした。 | 理事長を常勤とし、民間から登用した。 県派遣の管理職員を1名減じ、プロパー職員の管理職員を2名登用した。 | 県派遣職員を2名減じた。 |

(5) 常勤職員の給与体系

| (いずれかに をして下さい。) | 給与体系の見直し予定 |
|-----------------|---------------|
| 1 法人独自の給与体系 | 1 有 (年 月 予定) |
| ② 県の給与体系を準用 | ② 無 |
| 3 その他 () | 3 その他 () |

給与体系の見直し予定がある場合、どの様に見直しする予定か記入してください。

| |
|--|
| |
|--|

(6) 経営情報等の情報公開の状況(複数回答可 いずれかに をして下さい。)

| 青森県情報公開条例第33条の規定により実施機関が定める法人 | | 定められている | 定められていない |
|-------------------------------|-----------------------|----------------------|----------|
| 公開状況 | 公開内容 | 公開方法 | |
| 1 自ら積極的に公開している | ① 貸借対照表 | ① 事務所等に備え付け | |
| ② 情報開示請求等があれば公開している | ② 損益計算書、収支計算書等(概要のみ可) | ② 広報誌、新聞等、インターネット、公告 | |
| 3 その他() | ③ 事業内容、計画等 | 3 議会において説明等 | |
| | 4 その他() | 4 その他() | |

青森県情報公開条例第33条の規定により実施機関が定める法人に定められた法人は条例の主旨にのっとり、その保有する情報の開示及び提供を行うため必要な措置を講ずるよう努める責務があります。また、公益法人は「公益法人の設立許可及び指導監督基準(平成8年9月20日閣議決定)」に基づき業務及び財務に関する資料を主たる事務所に備えて置き、原則として、一般閲覧に供することとなっています。

(7) 内部統制(業務チェック体制等)の状況 (内部統制の確立とその有効な運用を確保するために、どのような施策をとっていますか。)

- (1) (財)青森県建設技術センター事務決裁規程、文書取扱規程により、運用している。
- (2) 会計業務の内部統制に係るフローチャートを策定し、運用している。
- (3) 収入・支出、固定資産等の管理、印鑑・小切手の管理等、一連の会計業務について、調査役による内部監査を年に数回実施している。
- (4) ISO9001(品質マネジメントシステム)に基づき、より一層の内部統制を図る。

内部統制とは、法人内のチェック・システムで間違い(誤謬・不正)を未然に発見できる仕組みをいう。

(8) 職員研修の実施状況

| 研修の名称 | 実施機関名 | 受講人数 | 最終実施年度 |
|-----------------------|------------|------|--------|
| 災害復旧実務中堅技術者研修 外技術研修3回 | 全国建設研修センター | 4 | 平成14年度 |
| 建設技術講習会 外技術研修2回 | 全日本建設技術協会 | 4 | 平成14年度 |
| 下水道管理者研修会 外技術研修6回 | 日本下水道協会 | 9 | 平成14年度 |
| 日本下水道事業団研修 | 日本下水道事業団 | 6 | 平成14年度 |
| (以上主なものを記載) | | | |

(9) 人事交流の実施状況

| 人事交流等の実績 | 実施年度 |
|------------------------|--------|
| 青森県道路公社 へ 2 名派遣 | 平成14年度 |
| (財)青森県フェリー埠頭公社 へ 1 名派遣 | 平成14年度 |
| へ 名派遣 | |
| 青森県道路公社 から 2 名受入 | 平成14年度 |
| 青森県住宅供給公社 から 1 名受入 | 平成14年度 |
| から 名受入 | |

4 マネジメント評価

(1) 経営理念・基本目標、中長期経営計画、提言への対応

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 経営者の経営理念・基本目標は、貴団体の設立目的に立脚して策定していますか。 | | | | |
| 経営者の経営理念・基本目標は経営者が自らリーダーシップを発揮し、単に訓示する等にとどまらず日常の経営活動の中で役員・職員に周知徹底するようにしていますか。 | | | | |
| 貴団体の実施事業に関連のある社会経済動向や経営環境について調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 貴団体と同種の事業を行う他団体の経営情報について調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 顧客(サービス等を提供する対象)、市場及び県民ニーズについて事業毎に調査、分析し、その結果を資料としてまとめ、それを貴団体の経営活動に活かしていますか。 | | | | |
| 経営者の経営理念・基本目標に基づき、中長期経営計画を策定していますか。 | | | | |
| 中長期経営計画と県の政策との整合性について県の所管部局と十分に協議していますか。 | | | | |
| 中長期経営計画に経営数値目標が含まれていますか。 | | | | |
| 中長期経営計画に基づき、年度ごとに経営数値目標を作成していますか。 | | | | |
| 年度ごとの経営目標には、事業ごとに経営数値目標が含まれていますか。 | | | | |
| 外部経営環境の変化に応じて中長期経営計画を見直し、修正するシステムがありますか。 | | | | |
| 中長期経営計画の見直しを踏まえて、年度ごとの経営数値目標と実績を比較、分析して、その結果に応じて次年度の経営数値目標や計画を見直すシステムがありますか。 | | | | |
| 民間や他の団体が担える業務が、貴団体の業務に含まれていませんか。 | | | | |
| 公社等経営委員会からの提言について対応策を策定し、実施していますか。 | | | | |
| 公社等経営評価委員会からの提言等について対応策を策定し、実施していますか。 | | | | |
| 合計数 | 14 | 1 | 14 | 1 |
| | はいの割合 | 93.3% | はいの割合 | 93.3% |
| | 評価 | A | 評価 | A |

| 経営理念・基本目標・中長期経営計画に関する公社等の考え方 | 経営理念・基本目標・中長期経営計画に関する所管課のコメント |
|---|--|
| 当センター寄附行為の設立目的に基づき、また公社等を取りまく経営環境の変化に対応しながら、センター全体において検討、推進を図る。 | <p>設立目的に沿ったものであり、役員・職員への周知も図られている。</p> <p>また、公社等経営委員会や経営評価委員会からの提言に沿い、道路台帳事業のうち民間と競合する部分については受託せず、縮小を図ってきており、提言が十分反映された事業展開となっている。</p> |

(2) 事業内容等

| 評 価 項 目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|---|-------|--------|-------|--------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 貴団体の事業内容は設立目的と合致していますか。 | | | | |
| 貴団体の事業内容は、関連のある県の事業計画と整合性がとれていますか。 | | | | |
| 貴団体の事業内容は、外部経営環境を考慮していますか。 | | | | |
| 事業の目標は、数値で設定されていますか。 | | | | |
| 事業の目標値と実績値を比較し、差異の原因分析を行い、その結果を経営者層に報告するシステムが構築されていますか。 | | | | |
| 事業の目標値が達成されなかった場合、対応策を策定し、それを実施していますか。 | | | | |
| 顧客のニーズの把握・調査を行い、その結果を受けて経営改善策を実施していますか。 | | | | |
| いわゆる「顧客満足度調査」を行い、その結果を受けて経営改善策を実施していますか。 | | | | |
| 受託事業を再委託する際、主要部分は直営で実施するなどその内容は適切ですか。 | | | | |
| 実施事業の広報活動について、積極的に取り組み、その効果について検証を行っていますか。 | | | | |
| 顧客から貴団体が行う広報活動についての提案があった場合、それを広報活動の改善に反映させるように取り組んでいますか。 | | | | |
| 合 計 数 | 11 | 0 | 11 | 0 |
| | はいの割合 | 100.0% | はいの割合 | 100.0% |
| | 評 価 | A | 評 価 | A |

| 事業内容等に関する公社等の考え方 | 事業内容等に関する所管課のコメント |
|---|---|
| <p>設立目的と実施している事業は合致しており、今後ともさらに県及び市町村に対する建設行政の補完・支援の強化・充実を図る。</p> | <p>業務内容と設立目的の整合性がとれており、今年度においては広報活動を重視、積極的に活動をしている。</p> |

(3) 組織体制等

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|--|-------|-------|-------|-------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 役員の選任に際しては、経営責任を果たせる人材を登用し、かつ、常勤役員を最小限にしていますか。 | | | | |
| 経営上の重要な意思決定(一定金額以上の借入金、投資、職員の給与等)は、理事会等の決議によりなされていますか。 | | | | |
| 貴団体の経営活動について、理事会が実効性・責任性を持って年4回以上実施されていますか。 | | | | |
| 監事監査が実効性をもって実施され、その指摘事項に対し改善策を実施していますか。 | | | | |
| 内部統制のあり方を定期的に見直ししていますか。 | | | | |
| 決裁に関する規程は、適正であり、遵守されていますか。 | | | | |
| 組織が硬直化しないように、組織(課・係の再編成やフラット化、事務分掌の変更等)の見直しを行っていますか。 | | | | |
| 業務量に照応して職員数は適正ですか。 | | | | |
| 職能の向上と職場の活性化のため、適材適所に配慮しつつ、同一職務への長期間の職員配置の見直しを行っていますか。 | | | | |
| プロパー職員の役員・管理職登用を行っていますか。 | | | | |
| 役員報酬は役員の職能遂行度と経営状況に鑑みて適切なものとなっていますか。 | | | | |
| 職員給与は職員の業績と経営状況に鑑みて適切なものとなっていますか。 | | | | |
| 適正な人事評価制度を導入していますか。 | | | | |
| 管理職を対象とした研修を行っていますか。 | | | | |
| 一般職員の能力を引き出すような研修を行っていますか。 | | | | |
| 職員の経営への参画意識や積極的な問題提起意識を具体的に取り上げる仕組みがありますか。 | | | | |
| 他団体との人事交流(研修派遣等を含む)を行っていますか。 | | | | |
| 経営情報等の情報公開を、県民に対し、貴団体独自に行っていますか。 | | | | |
| 合 計 数 | 17 | 1 | 17 | 1 |
| | はいの割合 | 94.4% | はいの割合 | 94.4% |
| | 評 価 | A | 評 価 | A |

| 組織体制等に関する公社等の考え方 | 組織体制等に関する所管課のコメント |
|--|---|
| <p>経営環境の変化に応じ、役職員数及び組織の見直しを行い、それに伴う諸規程の整備に努める。</p> | <p>理事会の活性化については今後の課題としてあるが、プロパー職員の管理職への登用も徐々に進んでいる。</p> <p>また、職員研修として管理職を対象とした研修を独自に実施している。</p> |

(4) 事業遂行の効率性等

| 評価項目 | 公社等記入 | | 所管課記入 | |
|--|-------|--------|-------|--------|
| | はい | いいえ | はい | いいえ |
| 事務処理の問題点の把握や原因分析を行っていますか。 | | | | |
| 把握された事務処理の問題点に対する改善を行っていますか。 | | | | |
| 管理費削減のために支出項目の分析を行っていますか。 | | | | |
| 管理費削減のために具体的な改善を行っていますか。 | | | | |
| 業務委託や一定金額以上の物品購入コストの低減のために、入札方式や契約方法を工夫していますか。 | | | | |
| 効率的・効果的な業務遂行のために外部委託を行っていますか。 | | | | |
| 外部委託業者の選定基準・プロセスが公開され、明確ですか。 | | | | |
| 取引相手先が5年以上固定化していませんか。 | | | | |
| 金融機関等に対する金利交渉等を行っていますか。 | | | | |
| 資金運用、投資先を定期的に見直ししていますか。 | | | | |
| 保有資産の含み損はありませんか。 | | | | |
| 回収困難な債権が増加していませんか。 | | | | |
| マーケティング活動を積極的に行っていますか。 | | | | |
| 合計数 | 13 | 0 | 13 | 0 |
| | はいの割合 | 100.0% | はいの割合 | 100.0% |
| | 評価 | A | 評価 | A |

| 事業遂行の効率性等に関する公社等の考え方 | 事業遂行の効率性等に関する所管課のコメント |
|--|--|
| <p>事業の効率を高めるため、センター全体において、経費節減に取り組んでいる。</p> <p>事務処理等の問題点について、協議・検討をし、改善を行っている。</p> | <p>事務処理の問題点については十分検討し、対応が必要なものは対応している。</p> |

財務

1 財務の状況

二つ以上の会計部門を持っている法人は総括表により記載する。

(1) 収支計算の概要

(単位:千円未満四捨五入)

| 収入の部 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------|------------|-----------|-----------|-----------|
| ア | 基本財産運用収入 | 80 | 79 | 1 |
| イ | 入会金収入 | | | |
| ウ | 会費収入 | | | |
| エ | 事業収入 | 836,215 | 788,522 | 657,680 |
| オ | 補助金等収入 | | | |
| カ | 負担金収入 | | | |
| キ | 受託収入 | 1,364,367 | 1,419,372 | 1,418,984 |
| ク | 寄付金収入 | | | 638 |
| ケ | 運用財産受取利息 | 1,496 | 1,059 | 1,109 |
| コ | 雑収入 | 2,282 | 1,245 | 1,078 |
| サ | 基本財産収入 | | | |
| シ | 固定資産売却収入 | | 494 | |
| ス | 敷金・保証金戻り収入 | | | 225 |
| セ | 借入金収入 | | | |
| ソ | 特定預金取崩収入 | 10,000 | 6,689 | 1,601 |
| タ | 他会計受入収入 | 6,509 | 4,600 | 20,000 |
| チ | 当期収入合計 | 2,220,949 | 2,222,060 | 2,101,316 |
| ツ | 前期繰越収支差額 | 29,324 | 60,125 | 96,365 |
| テ | 収入合計 | 2,250,273 | 2,282,185 | 2,197,681 |
| 支出の部 | | | | |
| ト | 事業費 | 1,496,604 | 1,468,466 | 1,406,650 |
| ナ | 管理費 | 601,953 | 651,481 | 575,231 |
| | ニ (うち人件費) | 480,771 | 498,553 | 444,147 |
| ヌ | 固定資産取得支出 | 7,223 | 1,276 | 2,692 |
| ネ | 敷金・保証金支出 | | | |
| ノ | 借入金返済支出 | | | |
| ハ | 特定預金支出 | 77,859 | 59,421 | 6,202 |
| ヒ | 他会計繰入支出 | 6,509 | 4,600 | 20,000 |
| フ | 当期支出合計 | 2,190,148 | 2,185,244 | 2,010,775 |
| ヘ | 当期収支差額 チ-フ | 30,801 | 36,816 | 90,541 |
| ホ | 次期繰越収支差額 | 60,125 | 96,941 | 186,906 |

注1 正味財産増減計算書より

| 増加の部 | | | | |
|------|------------|--------|--------|--------|
| マ | 退職給与引当金取崩額 | | 6,689 | 1,601 |
| ミ | その他の引当金取崩額 | 3,249 | 2,981 | 1,720 |
| 減少の部 | | | | |
| ム | 固定資産除売却額 | 7,447 | 2,295 | 459 |
| メ | 固定資産減価償却額 | 48,344 | 31,360 | 25,963 |
| モ | 退職給与引当金繰入額 | 7,859 | 13,224 | 24,052 |
| ラ | その他の引当金繰入額 | 299 | 133 | 72 |

注1 減価償却方法

(例:定額法による税法基準の償却率)

定率法による税法基準の償却率。ただし、平成10年以降に取得した建物については税法に基づき定額法で行っている。

| 償却過不足額 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|------------------------------|------|------|------|
| 償却不足額の当該年度分は メ に加味する。 | | | |

注2 退職給与引当金の引当方法

退職給与引当金の算出方法、決算書上の負債としての計上の状況、特定資金の留保の状況について記載してください。

前期末要支給額と当期末要支給額との差額を当該年度分として計上

(引当していない場合や引当不足がある場合は、支給対象社員の自己都合退職の期末要支給額を計算し、期末帳簿残高との差額を **モ** に入れる。)

注3 その他の引当金の種類と引当方法

| 引当金の名称 | 引当方法 |
|--------|-----------------|
| 賞与引当金 | 法人税法上の暦年基準により計上 |
| 引当金の名称 | 引当方法 |
| 貸倒引当金 | 法人税法上の基準により計上 |
| 引当金の名称 | 引当方法 |
| | |

引当不足がある場合は、あるべき期末残高と期末帳簿残高との差額を **ラ** に加味する。

(2) 財政状態の概要

(単位:千円未満四捨五入)

| 項 目 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-----|----------------|---------|---------|---------|
| a | 流動資産 | 192,878 | 247,088 | 266,868 |
| b | 固定資産 | 472,974 | 494,881 | 478,720 |
| c | (うち基本財産 / 基本金) | 23,620 | 23,620 | 23,620 |
| d | (うちその他の固定資産) | 449,354 | 471,261 | 455,100 |
| e | 資産合計 | 665,852 | 741,969 | 745,588 |
| f | 流動負債 | 140,786 | 155,332 | 83,498 |
| g | (うち借入金) | 0 | 0 | 0 |
| h | 固定負債 | 15,118 | 21,653 | 26,254 |
| l | (うち借入金) | 0 | 0 | 0 |
| j | 負債合計 | 155,904 | 176,985 | 109,752 |
| k | 正味財産 | 509,948 | 564,984 | 635,836 |
| l | (うち当期増減額) | 66,541 | 55,036 | 70,852 |

(3) 内部留保金額 年度末現在

(単位:千円未満四捨五入)

| 項 目 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-------------------------|---------|---------|---------|
| 総資産額 | 665,852 | 741,969 | 745,588 |
| (1) 財団法人における基本財産 | 23,620 | 23,620 | 23,620 |
| (2) 公益事業を実施するために有している基金 | 0 | 0 | 0 |
| (3) 法人の運営に不可欠な固定資産 | 314,236 | 283,411 | 262,649 |
| (4) 将来の特定の支払に充てる引当資産等 | 15,118 | 67,850 | 72,451 |
| (5) 負債相当額 | 165,214 | 191,845 | 168,279 |
| m 内部留保金額 | 147,664 | 175,243 | 218,589 |

「内部留保」とは、総資産額から、次の事項等を控除したもとする。

財団法人における基本財産

公益事業を実施するために有している基金(事業目的が限定的であり、容易に取り崩しができないものに限る。)

法人の運営に不可欠な固定資産:法人事務所、事業所、土地、設備機器等(固定資産については、真に必要な水準に限られるべきものであり、法人の事業内容、規模等から考えて不必要に広い法人事務所等は、これに該当しない。)

将来の特定の支払に充てる引当預金等:退職給与引当金、減価償却引当預金等(引当預金についても、法人の運営上将来必要な特定の支払に充てることが明瞭であり、かつその支払等が可能な限り明確に予定されているものに限られるべきである。従って、退職給与引当金の債務の額を超えて引き当てられた退職給与引当預金等は、これに該当しない。)

負債相当額(将来の支出が明瞭なものに限る。また、引当預金を有しているものは除く。)

(4)補助金等の受入状況

(単位:千円未満四捨五入)

| 区 分 | 交 付 者 | 12年度 | 対全体収入比 (左の額/千) | 13年度 | 対全体収入比 (左の額/千) | 14年度 | 対全体収入比 (左の額/千) |
|------------|----------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|
| | 国・地方公共団体 | | | | | | |
| 補助金収入 1 | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 受託料収入 2 | 国 | | | | | | |
| | 県 | 1,364,367 | 61.4% | 1,419,372 | 63.9% | 1,418,984 | 67.5% |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 1,364,367 | 61.4% | 1,419,372 | 63.9% | 1,418,984 | 67.5% |
| そ の 他 3 | 国 | | | | | | |
| | 県 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 小計 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合 計 | | 1,364,367 | 61.4% | 1,419,372 | 63.9% | 1,418,984 | 67.5% |

1 ~ 3の具体的内容

2 下水道維持管理業務受託収入

2 財務分析

(1) 損益計算

収支計算書等を以下のように組み替えて、フロー式(公益法人会計基準第5の2の但し書き)の正味財産増減計算書を作り、損益の状況を発生原因別に明らかにする。

(単位:千円未満四捨五入)

| フロー式正味財産増減計算書(損益計算書) | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|----------------------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 増加原因の部 | | 計算式 | | |
| 基本財産運用収入 | ア | 80 | 79 | 1 |
| 入会金収入 | イ | 0 | 0 | 0 |
| 会費収入 | ウ | 0 | 0 | 0 |
| 事業収入 | エ | 836,215 | 788,522 | 657,680 |
| 補助金等収入 | オ | 0 | 0 | 0 |
| 負担金収入 | カ | 0 | 0 | 0 |
| 受託収入 | キ | 1,364,367 | 1,419,372 | 1,418,984 |
| 寄付金収入 | ク | 0 | 0 | 638 |
| 運用財産受取利息 | ケ | 1,496 | 1,059 | 1,109 |
| 雑収入 | コ | 2,282 | 1,245 | 1,078 |
| 基本財産収入 | サ | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産売却益(損) | シ - ム | 7,447 | 1,801 | 459 |
| 退職給与引当金取崩額 | マ | 0 | 6,689 | 1,601 |
| その他の引当金取崩額 | ミ | 3,249 | 2,981 | 1,720 |
| 小計 | リ | 2,200,242 | 2,218,146 | 2,082,352 |
| 減少原因の部 | | 計算式 | | |
| 事業費 | ト | 1,496,604 | 1,468,466 | 1,406,650 |
| 管理費 | ナ | 601,953 | 651,481 | 575,231 |
| 固定資産減価償却費 | メ | 48,344 | 31,360 | 25,963 |
| 退職給与引当金繰入額 | モ | 7,859 | 13,224 | 24,052 |
| その他の引当金繰入額 | ラ | 299 | 133 | 72 |
| 小計 | ル | 2,155,059 | 2,164,664 | 2,031,968 |
| 当期正味財産増減額(当期利益・損失額) | レ | 45,183 | 53,482 | 50,384 |

(2) 独立採算過不足額計算

損益計算の結果を受けて、法人運営費用に対する独立採算の過不足額を計算する。

(単位:千円未満四捨五入)

| 独立採算過不足額計算書 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|---------------------|-------|--------|--------|--------|
| 計算式 | | | | |
| 当期正味財産増減額(当期利益・損失額) | レ | 45,183 | 53,482 | 50,384 |
| 補助金等収入 | オ | 0 | 0 | 0 |
| 独立採算過不足額() | レ - オ | 45,183 | 53,482 | 50,384 |

次の計算式で、独立採算度を計算する。

(単位:%小数点1桁)

| 独立採算度の計算 | | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|--|--|------|------|------|
| 独立採算過不足割合 = 口 独立採算過不足額 / ト 事業費 + ナ 管理費 | | 2.2 | 2.5 | 2.5 |

(3)その他の財務分析比率表

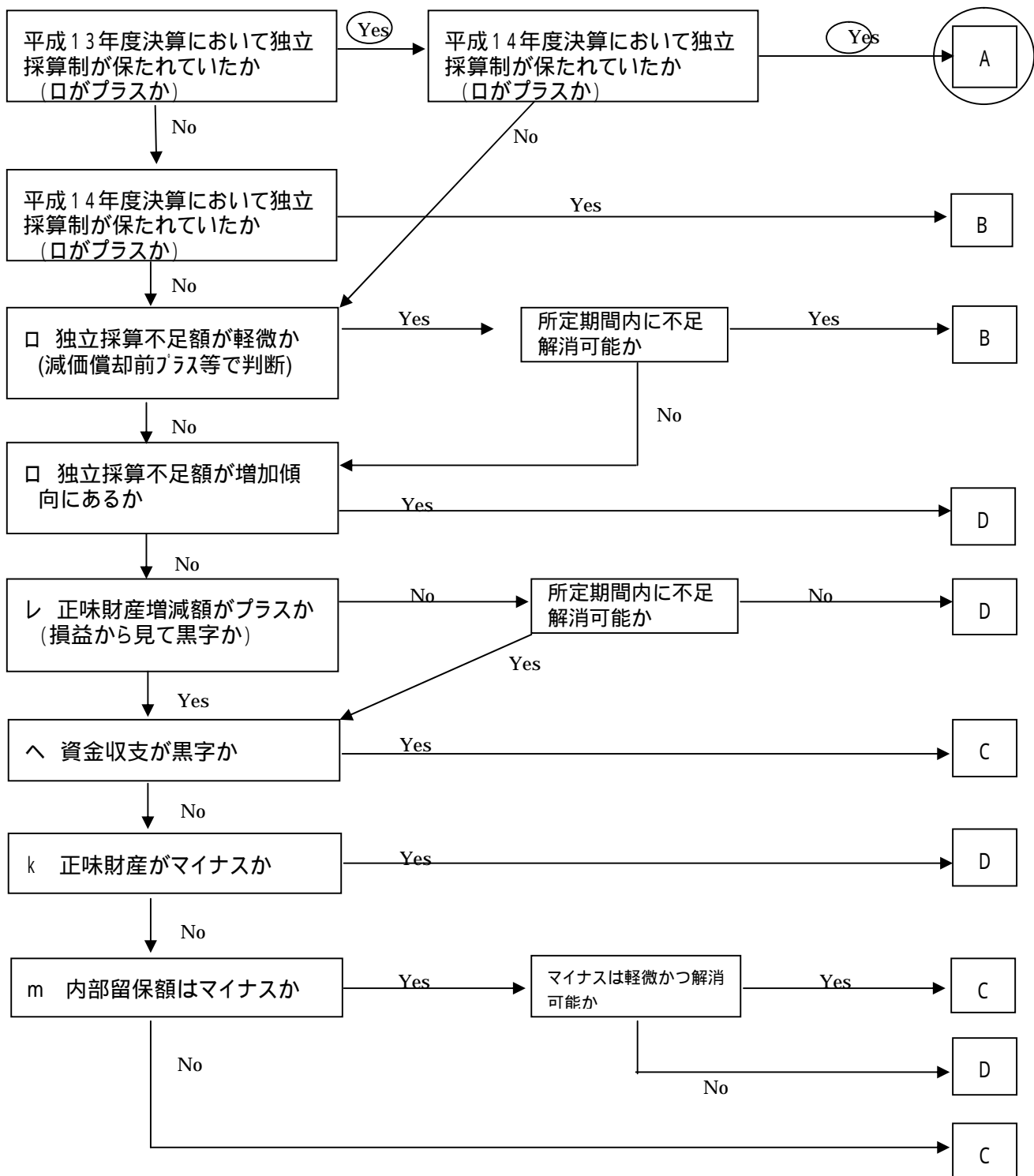
(単位: %・小数点1桁)

| 比率の名称 | 算式 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 傾 向 (14年度/13年度) |
|-------------|--------------------------|--------|--------|--------|-----------------------|
| 健全性 | | | | | |
| 内部留保率 | m 内部留保金額 / ㊦ 当期収入合計 | 6.6 | 7.9 | 10.4 | |
| 管理費比率 | ㊦ 管理費 / ㊧ 当期支出合計 | 27.5 | 29.8 | 28.6 | |
| 人件費比率 | ㊧ 管理費(うち人件費) / ㊦ 管理費 | 79.9 | 76.5 | 77.2 | |
| 採算性 | | | | | |
| 正味財産対収支差額比率 | ㊨ 当期収支差額 / k 正味財産 | 6.0 | 6.5 | 14.2 | |
| 総資産対収支差額比率 | ㊨ 当期収支差額 / e 資産合計 | 4.6 | 5.0 | 12.1 | |
| 総収入対収支差額比率 | ㊨ 当期収支差額 / ㊦ 当期収入合計 | 1.4 | 1.7 | 4.3 | |
| 総資産回転率 | ㊦ 当期収入合計 / e 資産合計 (単位:回) | 3.3 | 3.0 | 2.8 | |
| 1人当たり年間収入 | ㊦ 当期収入合計 / 総職員 (単位:千円) | 33,651 | 25,838 | 25,016 | |
| 安全性 | | | | | |
| 流動比率 | a 流動資産 / f 流動負債 | 137.0 | 159.1 | 319.6 | |
| 総資産対正味財産比率 | k 正味財産 / e 資産合計 | 76.6 | 76.1 | 85.3 | |
| 借入金依存度 | 借入金等残高 / e 資産合計 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 上昇数 | 6 | 評価 | ++ |
| | | 横ばい数 | 4 | | |
| | | 下降数 | 1 | | |

3 財務評価

(1) 評価のフローチャート(下記の該当するYes、No及びA～Dを丸で囲むこと)

< 独立採算過不足額計算書他からみて >



A: 良好
 B: 概ね良好
 C: 改善を要する
 D: 大いに改善を要する

(2) 財務分析に関するコメント

公社等の業種や性格、公共性、また設備投資の多寡、経営の責めに帰すべき理由など、特記事項がある場合には、その内容(県の施策等と実施事業の関連性、類似事業を行う法人等の状況等の考慮)を具体的に記入する。

| 公社等コメント | 所管課コメント |
|--|--|
| <p>当センターは、平成14年4月に青森県下水道公社の全ての業務を引き継いだものである。下水道公社においては、当該公社の業務が法人税法の「実費弁償による事務処理の受託等に該当するもの」と認められ、収益事業として取り扱われていなかったが、当センターが引き継いだ際にその取扱は認められなかった。</p> <p>よって、本評価シートにおいて、平成13年度まで公益事業として整理していた約14億円の事業費が、収益事業として整理されることによって、公益・収益の比率が大きく変動した。</p> | <p>左記の事項は、税務署の判断に基づいてなされたものであり、やむをえないものと判断される。</p> |

公社等経営評価総括表

公社等の名称 財団法人 青森県建設技術センター

1 マネジメント評価

| 項目 | 公社等自己評価 | | | | | 所管課評価 | | | | | |
|------------------------------|---------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|---|
| | はいの数 | いいえの数 | はいの割合 | 今年度の評価 | 前年度の評価 | はいの数 | いいえの数 | はいの割合 | 今年度の評価 | 前年度の評価 | |
| (1) 経営理念・基本目標、中長期経営計画、提言への対応 | 14 | 1 | 93.3% | A | A | 14 | 1 | 93.3% | A | A | |
| (2) 事業内容等 | 11 | 0 | 100.0% | A | A | 11 | 0 | 100.0% | A | A | |
| (3) 組織体制等 | 17 | 1 | 94.4% | A | A | 17 | 1 | 94.4% | A | A | |
| (4) 事業遂行の効率性等 | 13 | 0 | 100.0% | A | A | 13 | 0 | 100.0% | A | A | |
| マネジメント評価総合 | | | | A | A | | | | | A | A |

2 財務評価

| 項目 | 公社等自己評価 | |
|------------------|---------|-----|
| | 今年度 | 前年度 |
| (1) フローチャートによる評価 | A | A |
| (2) 財務分析比率による傾向 | ++ | ++ |

3 総合

| (1) 公社等自己評価 | | | | | (2) 所管課評価 | |
|-------------|-----|---------|--------|-----|-----------|-----|
| マネジメント評価 | | 財務評価 | | | マネジメント評価 | |
| 今年度 | 前年度 | フローチャート | 財務分析比率 | 前年度 | 今年度 | 前年度 |
| A | A | A | ++ | A++ | A | A |

【評価基準】 「A」……良好 「B」……概ね良好 「C」……改善を要する 「D」……大いに改善を要する

4 公社等経営評価委員会のコメント

本法人と所管課からのマネジメント評価は概ね妥当である。

その理由として以下のことを指摘することができる。

- 1 規制緩和がますます推進され、かつ公益性の高い事業への本法人の特化によって将来的に業務量の縮小が避けられないとの判断の下に、本年度において県派遣職員2名を減じたこと。
- 2 プロパー職員の管理職への登用を推進し、かつプロパー管理職の質的向上のために本法人独自の研修を実施していること。

ただし、本法人構成員60名に対して県派遣職員14名は、公社等法人の自主独立経営の原則からして、2名減じたとはいえ多すぎるので、今後の業務量をシミュレーションしつつ、計画的に減じていくことを当委員会は本法人に求めるものである。

財務評価についても概ね妥当であると判断する。ただし、退職給与について、その引当財源は十分に確保されているとしても引当金（負債勘定）の方に計上不足があり、他の公社等との比較可能性確保、財務分析結果の信頼性確保、適正な財政状態の情報開示などといった観点から、今後「退職給付会計」等の会計慣行に基づいた対応が必要である。

また、規制緩和の更なる進行にともなって積算事業や施工管理事業も市場競争となる可能性もありうることや、県の公の施設である岩木川・馬淵川・十和田湖下水処理場の維持管理事業については本法人と民間業者とで公正に競争が行われることになると予想されるので、それらへの対応（本法人の民営化移行も含めて）について真摯に検討することを本法人のみならず所管課にも当委員会は求めるものである。